

5 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ認証委員会

5.1 概要

2000年12月1日付でWES 8110：2000（建築鉄骨ロボット溶接オペレータの技術検定における試験方法及び判定基準）、WES 8111（建築鉄骨ロボット溶接オペレータの資格認証基準）が制定された。この認証制度を推進させるため、2000年度に技術基準・評価委員会（2008年度からは要員認証管理委員会に改組）内に、「建築鉄骨ロボッ

ト溶接オペレータ認証委員会」（前委員長青木博文、現委員長中込忠男）を設置し、合格者の認定、その他重要事項の決定などを行ない、また、「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ評価委員会」（前委員長中込忠男、現委員長山田丈富）を設置し、技術検定試験の実施と試験結果の評価などを行っている。

5.2 10年間の活動

5.2.1 認証者数の推移

2009年度から2018年度の10年間の認証者数の推移を、表5.1に示す。新規認証者数は2014年度から増え始め、2017年度は急増し、2018年度も年度途中ではあるが前年度と同様の増え方となっている。また、新規認証取得日から6年を超える前に取得できる再認証者数は対象者数の変動により増減はあるが、更新率で見ると、前半5年間は約60～70%、後半5年間は70～100%であり、近年は更新率が高くなっている。また、2002

表 5.1 年度別認証取得件数推移表

年度	認証取得件数	
	新規認証	再認証
2009	100	18
2010	56	31
2011	56	46
2012	73	64
2013	75	233
2014	130	96
2015	152	58
2016	171	87
2017	289	75
2018*	145	32
累計	1247	740

* 2018年度は4期中2期（10月）までの数値

年度からの資格保有実人数は1,185人となっている（2018年10月現在）。

5.2.2 規格改定

WES 8110「建築鉄骨ロボット溶接オペレータの技術検定における試験方法及び判定基準」および、WES 8111「建築鉄骨ロボット溶接オペレータの資格認証基準」について、2013年に下記のように改定が行われた。

- (1) WES 8111は、基本級の受験資格において、無資格でのロボット操作を防止するため、「ロボット溶接100日以上経験」を「ロボット溶接100日以上訓練又は補助作業」に表現を改めた。また、専門級の同時受験を禁止した。ただし、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ専門級特別教育の修了者は、基本級と専門級の同時受験を認めることとした。
- (2) WES 8110は、使用鋼材に大臣認定品を追加し、コーナータブについての具体的説明を追加した。

さらに専門級の試験内容について、JIS Z 3841/WES 8241に基づく半自動溶接技能者の専門級を取得している場合はロボット溶接実技試験を免除する規定としていたが、現場溶接における溶接施

工の開発に伴って、特例事項（例えば、ビード継目部の処理あり）が追加されて型式認証される溶接ロボットの機種が出てきている。このような溶接ロボットを適用する受験申請の場合には、半自

動溶接専門級資格の有無にかかわらず、ロボット溶接実技試験を行うよう改訂を行っている（2019年1月1日発行）。

5.3 今後の活動

AW 検定協議会、一般社団法人全国鉄工業協会、一般社団法人鉄骨建設業協会などの関連団体との連携がすすみ、建築鉄骨ロボット溶接オペレータの重要性・意義が浸透してきているとともに、一般社団法人日本建築学会の工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事および鉄骨工事技術指針の2018年1月の改定で、JASS6では、ロボット溶接において、一般社団法人日本ロボット工業会（溶接協会共同規格）の建築鉄骨溶接ロボット型式認証を取得した溶接ロボットをその認証範囲で用いる場合は、事前の施工試験が不要であることが明記さ

れ、さらにロボット溶接オペレータについては、鉄骨工事技術指針で日本溶接協会の建築鉄骨ロボット溶接オペレータの資格を有することが望ましいことが記載された。

以上の背景から、今後も溶接部の高能率、安定した品質確保の観点でロボット溶接がますます普及することを期待している。一方で、今後も積極的な広報を行うとともに、受験機会を増やすことができるように必要な施策も講じていく所存である。